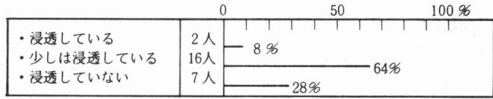


数を占めていることは、学校の教育目標の具現化についての具体的な手だてや指導の場についての研修と実践を積み重ねることにより、教育目標の具現化が一層はかれると思われる。

③ 教育目標は、生徒の日常生活の中に浸透していると思いますか。



▷考察◁ 有意義な学校生活を送らせるためには、計画的・継続的な指導が必要である。生徒の日常生活の中に、学校の教育目標が完全に浸透していないのは、前記調査②にみるほか、教師の、教育目標具現化に対する姿勢のあまさもあろう。

④ 学校の教育目標の具現化について、今後、どのような手だてが必要だと思いますか。

- ア 教師、生徒がともに具体目標を理解していること。
- イ 教師集団の共通理解の場を定期的に設けること。
- ウ 生徒自からも相互に反省し合う場を設けること。
- エ 具体的な指導を実践する場を計画的に設けること。
- オ 評価の基準となるような具体的な到達目標を作成すること。

▷考察◁ 年度末の反省にもみられたように、全職員が一致して共通理解のもとに実践をはかるためには、教師集団の共通理解を得るための場が欲

② 学校の教育目標の具現化をはかる構想図

教育目標	明 朗 な 生 徒	ね ば り 強 い 生 徒	深 く 考 え る 生 徒				
具体目標	1 健康な生活を送る。 2 安全な生活を送る。 3 あたたかい人間関係をつくる。	4 計画と実践力を養う。 5 学習や運動、勤労を通して苦難に負けずやりぬくたくましさを培う。	6 豊かな知性と創造力を高める。 7 美しい物を美しいと感じる情操を高める。 8 他人の意見を尊重する態度を養う。 9 学習の仕方を習得する。				
努力目標	学力の定着発展に努める。健康、安全教育の徹底をはかる。生徒指導の充実をはかる。教育環境の整備をはかる。						
第 二 学 年	学 目	1 中堅としての自主的、自律的態度を身につけさせる。 2 自分の行動に自覚と誇りを持ち、たえず反省しつつよい習慣を身につけさせる。					
	年 標	3 日常生活における諸活動を通して、互いに協力し、責任を遂行しようとする態度と実行力を身につけさせる。					
	経 方	1 学校の教育目標や努力目標を基盤とし、これを学年経営の中で具体化し、第2学年としてふさわしい学力と生活行動を身につけさせる。 2 学年担任の共通理解をはかり、一貫性のある指導を継続的に行う。					
	當 針	1 中堅学年としての特質を堅持し、自己を理解し特性を伸ばそうとする生徒を育成する。 2 学年・学級及び生徒会等の係活動の中で、自己の能力をためし、責任を果たす生徒を育成する。 3 日常生活の課題に積極的にとりくみ、創造力と向上心に満ちた生徒を育成する。 4 ひとりひとりが大切にされ、民主的なルールの中で互いに助け合い、やがて明るい社会を築くことのできる生徒を育成する。					
実 践 事 項	生徒指導の徹底		進路指導の適正化				
	1 基本的な生活態度の育成。 2 温かく協力的な学級集団を醸成する。	基礎学力の充実 1 基礎的な知識、技能を身につけさせる。 2 家庭学習の強化をはかる。	1 能力、適性に応じた指導を進める。 2 進学や就職の意義の徹底をはかる。				
学 年 級 目 標	学 級	1 組	2 組	3 組	4 組	5 組	6 組
	内 容						
	協力に関するもの	○	○	○	○	○	○
	責任に関するもの	○		○	○		○
	生活態度に関するもの	○	○			○	○
そ の 他		○	○	○	○	○	

しいという意見が強く、生徒に対しても、教育目標の理解と実践意欲の高揚のため、相互に反省をし合う場を設けて欲しいという意見もある。

以上が学校の教育目標の具現化についての教職員についての意識調査と結果の考察である。(7月23日実施)

これらの実態から、校長として、次のように取り組むことにした。まず、学校の教育目標具現化のための到達目標を策定すること。次に、教師と生徒が、共に具現化のための意識が高揚し、実践をはかる組織を作ること。さらに、学年経営において、学校の教育目標の具現化を意図した行事の計画とその実施である。

(2) 学校の教育目標具現化のための到達目標の策定

① 評価の基準

- ア 日常生活実践を通して到達が可能なもの
- イ 具体目標に照らし、4～6項目にする
- ウ わかり易い文章表現にする
- エ 生徒の自己評価を容易にするため、3段階評価とする